

平田ロータリークラブ 週報

発行日 毎週木曜日

平成18年11月16日

No.1588

率先しよう

国際ロータリー会長 ウィリアム・ビル・ボイド
第2690地区ガバナー 新 宮 彦 助

△事務局▽
島根県出雲市平田町2280-1 TEL 0853-63-3232
平田商工会議所2F FAX 0853-63-5365
IP 050-5204-5816
A.M. 9:00 ~ P.M. 5:00 土・日曜・祝祭日休局
E-mail hiratarc@hit-5.net

会 長 加藤喜久 副会長 田中久雄
幹 事 荒木 貫 会 計 金田卓也

例会プログラム

例 会	卓 話 者	演 題
第1588回	島根大学名誉教授 平塚貴彦様	暖かくなる地球②
第1589回	島根森林管理署署長 長口 深様	地球温暖化をおさえる森の力
第1590回	18:30~ 割烹温泉 ゆらり	忘年例会

出席報告

会 員 数	出 席 者 数	欠 席 者 数	出 席 率	前 回 補 正 率
49	40	9 (2)	85.11	80.85

欠 席 者 加藤喜・平野・金田・石橋・堀江・牧野・飯塚佳 (森山・石原恵)
M U 11/15吾郷・平野 (大社)

幹事報告

1. 休 会

- 松江南RC 11/20(月) 定款による ビジター受付 12:00~12:30 例会場にて
- 出雲中央RC 11/27(月) 定款による ビジター受付 なし

2. 例会場変更

- 松江しんじ湖RC

2007年1月9日(火)より【夕景湖畔すいてんかく】へ変更になります。

ス マ イ ル

荒木 大島治会頭さん、お世話になります。

藤井 平塚先生をスピーカーにお迎えして。

大島卓 先週の祝賀例会に欠席し、改めてお祝い致します。

高砂 先日は国富地区愛唱歌発表パーティーには常松会員 (SAA) に大変お世話になりました。
孫子の代まで歌わせていただきます。

12月7日例会受付当番

三代 晴 美 ・ 平 野 順 一 ・ 堀 江 卓 男

★松江南クラブ (月) 11/20(休) ★出雲クラブ (火)
★出雲中央クラブ (月) 11/27(休) ★松江クラブ (水)
★松江しんじ湖 (火) ★大社クラブ (水)

★平田RAC (第1・3水)
★松江東クラブ (木)
★出雲南クラブ (金)

副会長挨拶

毎年11月に入るとボジョレーヌーボーの解禁の話題がマスコミに登場する。

本場フランスでは昔は11月11日や12月15日に解禁の日が固定されて居り、土・日と重なる年もあった。

解禁を許可する役所も休日となると都合が悪くいつその事11月の第三木曜日午前0時に定めた。

地球の東回りを計算すると日本はフランスより8時間早く解禁となる。

今年も11月10日成田空港へ3万5000本が届いた。ボジョレーはフランスの地名、ヌーボーははしりとかなしきの意味がある。

さて、ワインの味は故高田芳夫会長から、ジャックダニエル、バーボンウイスキー極意の味は故飯塚幸謙管長から教わった。このお二人方は、それぞれワインとウイスキーの美学の持ち主であった。

赤ワインはボジョレーヌーボーも含めてポリフェノールを多く含み、人の体に対しても抗酸化作用を有する。しかし、酒には間違いない。多量に飲むと肝臓の負担にもなる。忘年会シーズンになった。

お互いに酒の量はほどほどにしたいと思う。

スピーチ

暖かくなる地球②

—地球温暖化にどう立ち向かうか—

島根大学名誉教授 平塚貴彦様

世界的な地球温暖化防止対策に「京都議定書」があります。1990年を基準として各国別に目標を定めて2008～2012年までに温室効果ガスを削減しようとする内容で、日本：マイナス6%、米国：マイナス7%、EU：マイナス8%の目標です。1997年12月に開催された会議から8年経過した2005年2月に発効されましたが、世界最大の約23%を排出する米国は批准を拒否し参加していません。また49%を排出している開発途上国には削減の義務を課さなかったため、世界第2位（16.4%）の中国や今後の排出増加が明らかなインド（4.3%）などは事実上参加しておらず、73%を排出する諸国で対策がなされないままとなっています。

当たり前のことですが大気は地球全体を覆っていますので、地球温暖化防止のためには国際協力が欠かせません。不参加諸国をいかに国際的な枠組みに関与させていくかが、今後の世界的な地球温暖化対策の重要な課題です。日本は自動車の燃費など環境対策の技術に優れており、世界のリーダーとして、また先進国の一員として努力が求められています。

「京都議定書」における日本の目標はマイナス6%ですが、2004年の時点ではむしろ8%増加しています。部門別でみると、産業部門では漸減している一方、家庭部門（全体の12～13%を占める）が31.5%も増加しており、その原因として、エアコンや大型冷蔵庫の普及、生活の夜型化、家庭から出る大量廃棄物の処理などがあげられます。自家用車からの排出量も50%増加していますが、これは家庭部門ではなく運輸部門にカウントされその半分を占めています。日常生活に密接した家庭部門と自家用車を合わせると全体の23.4%になります。

マイナス6%を達成するための身近な方法として、冷房設定28℃、暖房設定20℃、過剰包装をやめる、コンセントをこまめに抜く、電気をこまめに消す、もったいない風呂敷・バッグを利用するなど環境に配慮した日常生活を日常的に心がけることが提唱されていますが、包装紙やポリ袋などを作る会社にとってはいたみを伴うものです。また、自家用車の制限には、電車やバスの利用が勧められますが、公共交通の整備が必要です。

我々は環境から多くの恩恵を受けていますが、地域間・世代間の格差があってははいけません。良い環境を後世に残していく責務があります。